



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.33

「歴史」の2学期中間テスト試験範囲

今回のテスト範囲は、かなり狭くなりました。テスト範囲が狭くなった分、「考える問題」が多くなりますので、ていねいに授業内容を振り返っておいてください。

なお、テスト当日にノート提出を求めます。必ず、ノート整理をしておきましょう。

①【教科書と「なんでやねん」のテスト範囲】

教科書の範囲は「宗教のおこりと3大宗教」(p.30～p.31)、「たて穴住居・土偶」(p.33)、「弥生文化と邪馬台国」(p.34～p.35)、「大王の時代」(p.36～p.37)です。「なんでやねん」も出題範囲に入ります。No.28～No.32の内容から、授業で扱ったことを中心に出題します。

②【知識・理解に関すること】 … できごとや言葉の内容・つながりを説明できるようにしておくことが大切です。

教科書に記述されていることを、しっかり復習しておいてください。図版と文章で記述されている内容のつながりを説明できるようにしておきましょう。

③【資料活用技能に関すること】 … 図版や統計、「古文書(昔の書き物)」、説明文などを読み取ったり、調べたことを整理できるようにしておきましょう。

教科書や「なんでやねん」で取り上げている図版などから、情報を読み取る問題を出題します。特に「魏志倭人伝」から弥生時代の様子を読み取る問題を出します。また、教科書p.35に紹介されている「漢書地理志」「後漢書東夷伝」から読み取れる内容を説明できるかどうかを試します。

④【思考・判断に関すること】 … 社会的な出来事について、なぜその出来事が起きたのか、その出来事の結果どのように社会は変わったのかなどを、学習した考え方を使って説明できるようにすることが大切です。

縄文時代の暮らしと弥生時代の暮らしを比較したり、弥生時代から古墳時代への変化を示すことを説明できるようにしておいてください。

⑤【表現(関心・意欲・態度)に関すること】 … 社会的な課題に対する自分の考え方や考えた内容を文章(作文)で表すことを求める問題です。

今回は「作文」の課題を出題しません。ただし、「短文」で解答するタイプの「記述問題」を多く出題します。たとえば、縄文時代と弥生時代の違い、古墳時代の古墳の築造の様子から、古代の民衆の暮らしなどを想像して考えます。